

# たんぽぽ

## 新年あけましておめでとうございます

宇部興産中央病院は地域医療支援病院として、信頼と愛情を大切に地域医療の発展に努力していきます



### 4階建て

- 1F 救急センター他、CT・MRI室
- 2F 手術室 5室
- 3F 脳卒中センター、病棟
- 4F 病棟



いよいよ2月には南側に  
新病棟建設に着手します

2016年

1月

80号



### 地域連携室のイメージ花「たんぽぽ」

たんぽぽの花ことばは「真心の愛」「明朗な歌声」幸福を知らせる花、綿毛が地域連携の歌声です。自ら風のにり、地域の中に飛んでいき、地域に医療連携の種子を広げていく…そんな思いを込めた広報紙です。

### 【病院理念・方針】

いつでも誰でも安心してかかれる中央病院  
常に使命感を持ち協調して行動する中央病院

- 一、医の倫理と良心に従い、より良い医療の提供と医療安全に努めます。
- 一、患者さんの生命の尊厳と権利を尊重し、患者満足度の向上に努めます。
- 一、地域の中核病院として関係する地域医療・福祉機関との連携に努めます。
- 一、経営の健全化と職員満足度の向上に努めます。

### 地域医療支援病院

**UBE** 宇部興産中央病院  
地域連携室

宇部市大字西岐波750番地 TEL(0836)51-9421

## 新年のご挨拶と 新棟着工について



宇部興産中央病院院長  
**福本 陽平**

新年明けましておめでとうございます。

皆さまのご多幸とご健勝を心よりお祈りいたします。

今年の干支は申（さる）で、“森の賢者あるいは山神の使い”ともいわれている動物であり、この一年を頻発する自然災害から守ってほしいと願っています。

去年は2月に、中東のシリア、イラクで生れたイスラム過激派組織イスラム国が、激しい暴力と残虐行為で世界中を驚かし日本人2名が犠牲者となりました。この蛮行は、インターネットを通じて動画で全世界に公開され、ネット社会の情報の発信力にも驚きました。さらに、隣国の韓国では、死亡率の高い中東呼吸器症候群（MERS）の集団発生が起こり、国境を越える感染症に対して、医療施設は大変敏感になりました。また、8月には、阿知須きらら浜で“世界スカウトジャンボリー”が開催され、世界中から3万5千人もの人々が集まりました。炎天下の中で傷病者も発生し、当院の外来や病棟は一時、外国語が飛び交う国際病院となりました。

さて本年、宇部興産中央病院では新病棟建設の着工を予定しており、当院南側の駐車場の所に新棟を増築いたします。新病棟は、救急部門と画像診断部門とを一体化した救急医療の充実、高規格手術が可能な手術部門の拡充、重症患者用の集中治療病床の増床などを行う予定です。こうして、当院では地域医療を更に発展させる上での体制を整え、今後も市民の皆さまのための“やさしい病院”を目指して参ります。

本年も、引き続き安全・安心の医療を目標に、職員全員が努力するつもりでございますので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

## 地域医療支援病院となって 初めての外部委員による運営委員会を開催

当院は、救急医療や地域医療連携の実績が認められ、昨年8月に山口県知事から「地域医療支援病院」の承認をいただきました。

要件である紹介率、逆紹介率をクリアーし、医療機器の共同利用や救急医療の積極的な提供をはじめ、地域の医療スタッフに対する研修能力があることが認められたものです。

新年を迎えた今、宇部興産中央病院は「地域医療支援病院」の称号に恥じることなく、地域医療の発展にこれまで以上に努力していくことを誓います。

昨年11月、「地域医療支援病院」承認後、初めて地域医療支援病院運営委員会を開催しました。4月から9月の当院の地域連携の実績と今後の動きに関して協議しました。

この運営委員会は事務局は地域連携室ですが、委員はすべて外部の方々に、宇部市医師会長、小野田医師会長をはじめ8名の委員会です。

院外からの目で、当院が地域医療に果たす立ち位置を検証しながら、地域医療支援病院のあるべき姿を追求していきます。





# 外来心臓リハビリテーション始めました

心臓リハビリテーションとは、狭心症、心筋梗塞、心不全の患者さんが低下した心機能や全身機能を改善することで快適な生活や家庭生活に復帰し、さらに再発を予防することを目指して運動療法・食事療法・患者教育などを行うことです。以前は、心臓病には「絶対安静」が必要とされていましたが、過剰な安静が様々な弊害を生じることが近年わかってきました。運動の主な効果としては、①心肺や筋肉の機能が向上することで呼吸苦を軽減することができる、②動脈硬化危険因子の改善（血圧・血糖を下げる、肥満防止など）、③心臓病での入院回数減少・心臓死の減少、などがあります。

外来心臓リハビリテーションでは、医師・看護師・理学療法士・管理栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカーからなる医療チームが、患者さんひとりひとりに合った心臓リハビリテーションを提供いたします。

## 外来リハビリテーションの流れ

- ① 運動前準備(血圧・酸素測定、心電図モニター装着)
- ② 準備運動
- ③ 上肢・下肢の筋力強化運動
- ④ 有酸素運動(エルゴメーターを使用して運動を実施します)
- ⑤ 整理運動
- ⑥ 運動後片付け(血圧測定、心電図モニター取り外し)



(心臓リハビリテーション実施中の様子)

## 外来リハビリテーションのスケジュール

月・水・金：10時15分～11時15分、14時00分～15時00分、15時15分～16時15分

火・木：14時00分～15時00分

## 外来リハビリテーション参加者の声

- 自転車こぎなど体力の不足を感じることもありますが、次第に自信が付き軽快に歩くことが出来るようになりました。(80歳代女性)
- リハビリに来るのが楽しくなりました。(70歳代女性)
- バランスやリズム力が良くなりました。(80歳代男性)



(心臓リハビリテーション室から見える瀬戸内海)

## 心臓病を患い日常生活や社会復帰に不安をお持ちになる方 参加してみませんか！

何か疑問な点、あるいは関心のある方は下記まで気軽にお問い合わせ下さい。  
スタッフ一同お待ちしております。

問い合わせ先：循環器外来もしくは地域連携室Tel.0836-51-9421 Fax.0836-51-9454

### 心臓リハビリテーションスタッフ

- ・医師：循環器内科 徳久 隆弘
- ・理学療法士：心臓リハビリテーション指導士 伊藤 惇、原田 繁伸
- ・看護師：松本 亜美、福場 由美、藤川 晴子、田中 江美、道畑 真由美、伊藤 可奈恵、平田 早弥香
- ・薬剤師：大畑 伸明 ・管理栄養士：田中 洋美 ・医療ソーシャルワーカー：中川 美也子

# レディースドック

乳がん

子宮がん

卵巣がん

腹部エコー

大腸がん

骨塩定量

…その他、基本的な検査項目あり

今だけ!

通常価格

~~¥25,000~~



¥20,000

## 新春キャンペーン

♡ 実施中 ♡

平成28年1月4日～平成28年3月31日



特典

.....

その1 健保加入者割引

※所属健保により異なります。

その2 ANAクラウンプラザホテル宇部  
1F サルビアレストラン  
1,000円分お食事券

詳しくは健診センターまで!  
TEL: 0836-51-9222



## 救急救命士の 気管挿管再教育実習を引き受け

過去気管挿管30症例成功実習を終えて、救急現場で実際に活躍されています救急救命士の技量高揚を目的に気管挿管再教育を当院が引き受けています。

昨年の11月から本年2月までの間、宇部・山陽小野田消防局の救急救命士6名が、当院での全身麻酔手術患者さんから事前に同意を得て、麻酔科専門医師の指導のもとに、各自2症例の気管挿管実習を真剣に、初心に戻って行っておられます。

当院は救急を受入れる前の「病院前救護」の救急救命士のスキルアップにも貢献しています。



麻酔科の森本部長医師の指導で気管挿管実習

## 救命救命士スキルアップセミナーを開催

「救急現場 最前線 今、学ぼう！」をテーマに山口県下の救急救命士のためのスキルアップセミナーを宇部興産中央病院地域連携室と地域メディカル協議会とで共同開催しました。(昨年10月末)

このセミナーはで今回で第8回目となり、今回も山口県下消防本部の救急救命士130名が参加、当院の講堂が一杯になりました。当院脳神経外科部長の西崎隆文医師が「意識障害の診かたと鑑別」の教育講演を行い、救急救命士による救急搬送症例発表やパネルディスカッションを行いました。この救急救命士に対するセミナーは、山口県下では最大の参加規模になりました。



## FMきらら「宇部興産中央病院医療最前線」 番組を始めて10年目に入りました!

地域連携室が2006年(平成18年)12月に第1回目を始めてから10年目に入る超長寿番組となりました。毎週火曜日19時から1時間の生放送で、当院からスタジオへの出演者も延べ800人を超えます。新年最初が473回、夏にはなんと第500回を迎えます。FMきらら局のご支援もいただきながら、これからも宇部興産中央病院のこゝ、「人」を地域に発信していきたいと思っています。どうぞお聴きください。



## 在宅症例連携フォーラムを開催しました

テーマ：

入院と在宅医療の利点・限界・家族の思い  
～多機関、多職種の連携のあり方を探る～

当院は山口県から「在宅医療提供体制構築事業」を受託し、在宅医療に従事されている「かかりつけ医」や訪問看護師、ケアマネジャーなど医療・福祉・介護の地域スタッフのみなさんの後方支援を当院が行うものです。

住み慣れた地域で大切な家族とともに安心して暮らせる在宅医療を、当院は急性期病院の立ち位置で応援していきます。

その一環として、地域連携室では在宅症例連携フォーラムを企画開催しました。

当日は在宅医療をされている医師や訪問看護師がパネラーとなって、実際の在宅症例をもとに意見を出し合いました。100名の参加がありました。(10月)





# 摂食嚥下障害看護認定看護師を紹介します。

摂食嚥下障害とは、「食べる」「飲む」といった行動の障害を言い、その原因は脳卒中、神経筋疾患、加齢による影響など様々です。

現在は脳外科病棟に勤務しながら組織横断的に活動しています。具体的な活動としては、病態や摂食嚥下機能を評価し、その結果をもとに飲み込みやすいように顎を引いた姿勢を取る、片麻痺のある患者さんには症状にもよりますが非麻痺側から食事介助をするなど一人一人に適切な姿勢、食事形態、細かい食べ方の注意点を提案し、「どのようにしたら安全に食べる事が出来るか？」を病棟看護師とともに考え、患者さんの「食べたい」を支える看護を提供しています。また、院内栄養サポートチームの一員として、様々な職種と協働し、早期からの栄養管理を実施するとともに、摂食嚥下機能の低下予防、改善のためにリハビリスタッフと協働しながら、口腔ケア時に実施出来る舌や頬などの運動、食事前の嚥下体操など効果的なリハビリ訓練についても提案しています。

摂食嚥下障害は誤嚥性肺炎・窒息・低栄養・脱水といった生命の危機を引き起こします。摂食嚥下障害により起こるリスクを予防し、最後まで口から安全に食べることを継続出来るように、様々な職種と連携しながらスタッフ教育、患者・家族指導を行っています。摂食・嚥下障害に関するご相談にも対応していきたいと考えておりますので、お気軽にご相談ください。



摂食嚥下障害看護認定看護師  
**松村 紀子**

## 糖尿病週間記念行事を開催しました

平成27年11月11日開催  
たくさんの方に参加いただき熱心に質問されていました。



無料簡易検査と結果説明



糖尿病試食会

糖尿病食  
意外とおいしいですよ！



記念講演会  
歯科医師 溝部知樹  
演題『糖尿病と口腔ケア』

お口と糖尿病との関係知っていますか



管理栄養士による食事の専門的なアドバイス



イケメンの理学療法士さんと楽しい運動！！

## 明けましておめでとござります。

今回は糖尿病に関するクイズの出題です！  
みなさんは何問正解しましたか？



管理栄養士

Vol.7

のつぶやき



管理栄養士  
原田明子

問題1) 糖尿病の人が一番多い国はどこでしょう？

- ①日本 ②アメリカ ③中国

問題2) 次のうち、間違っているのはどれでしょう？

- ①糖尿病の患者さんは、女性よりも男性の方が多い  
②糖尿病は治療すれば治る病気だ  
③うどんと焼肉を比較すると、うどんの方が高血糖になる  
④一旦インスリンを始めても、インスリンをやめることができることもある

問題3) 次のうち、間違っているのはどれでしょう？

- ①有酸素運動と筋力トレーニングを併用すると効果的である  
②糖尿病の運動療法は食事前に行うことが望ましい  
③一人で頑張らず、目標を持って運動することが楽しく運動を続けるコツである  
④掃除や洗濯など日常生活活動を増やすことも大切である

(1) 羊歯、(2) 彩葉、(3) 白菜、(4) 人参、(5) 玉ねぎ、(6) じゃがいも、(7) とうもろこし、(8) じゃがいも、(9) じゃがいも、(10) じゃがいも